

2026 年 9 月 7 日

パナソニック オートモーティブシステムズグループの 温室効果ガス排出削減目標が SBT 認定を取得

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社（代表取締役社長：永易正史、本社：神奈川県横浜市）およびグループ（以下、当社グループ）が設定した温室効果ガス排出削減目標が、Science Based Targets initiative（SBT イニシアチブ）*より、地球温暖化による気温上昇を 1.5℃以内に抑制するための科学的根拠に基づいた目標として認定されました。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



Science Based Targets（SBT）とは、パリ協定が定める「産業革命前からの気温上昇を 1.5℃以内に抑える」という目標に整合した、企業の温室効果ガス排出削減目標です。当社グループが認定を取得した目標は下表の通りです。

区分	目標	
Near-term	Scope 1・2	2024年度を基準年として、2035年度までに温室効果ガス排出量を63.0%削減
	Scope 2	2030年度までに年間再生可能電力調達率を100%へ引き上げ、2035年度まで維持
	Scope 3	2024年度を基準年として、2035年度までにScope 3カテゴリー1およびカテゴリー11排出量を37.5%削減
Long-term	Scope 1・2	2024年度を基準年として、2050年度までに温室効果ガス排出量を90.0%削減
	Scope 3	2024年度を基準年として、2050年度までにScope 3カテゴリー1およびカテゴリー11の温室効果ガス排出量を90.0%削減
Net-Zero	Scope 1・2・3	2050年度までにバリューチェーン全体で温室効果ガス排出量ネットゼロを達成

当社グループは、気候変動を重要な経営課題の一つと位置付け、継続的な省エネルギー活動の推進や再生可能エネルギーの導入拡大に取り組んできました。2023 年からはグローバル主要拠点において CO2 排出実質ゼロを継続しています。

今回認定を取得した SBT 目標の達成に向けて、引き続き省エネルギー活動の徹底や再生可能エネルギーの導入・活用を進めるとともに、低炭素製品・サービスの拡大やサプライヤーとの連携強化に取り組めます。これらの取り組みを通じて、バリューチェーン全体での温室効果ガス排出量削減を推進し、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献します。

* : SBT イニシアティブ (SBTi) : CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、世界資源研究所 (WRI) 、世界自然保護基金 (WWF) の 4 つの機関が共同で運営し、パリ協定目標達成に向け、企業に対して科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を設定することを推進しています。

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社について

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社は、日本を本社とし、海外 8 カ国に傘下子会社を有するグローバル企業です。Tier 1 として、国内外の自動車メーカーに、インフォテインメントシステムをはじめとする当社ならではの先進技術を提供し、快適で安心・安全なクルマづくりに貢献しています。企業ビジョンに、世界一の「移ごちデザイン」カンパニーを掲げ、人に寄り添う技術で世界のお客様のご期待にお応えします。

なお当社は、2027 年 4 月 1 日より社名を「モビテラ株式会社」に変更します。

<https://automotive.panasonic.com/>

【報道関係者様 お問い合わせ先】

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社 経営企画センター コーポレートコミュニケーション室

e-mail: press-pas@ml.jp.panasonic.com Tel : 045-939-6103